

沖永良部島大山水鏡洞から出土した縄文時代人骨に 認められた下顎右中切歯の先天性欠如

Congenital Absence of Mandibular Right Central Incisor of Jomon Human Skeletal
Remain from Oyama-suikyoudou, Okinoerabu-jima

竹中正巳*・下野真理子*・新里亮人**・吾郷一利***

Masami Takenaka*, Mariko Shimono*, Akito Shinzato**, Kazutoshi Ago***

*鹿児島女子短期大学 **鹿児島伊仙町歴史民俗資料館

***鹿児島大学大学院医歯学総合研究法医学分野

1. はじめに

ヒトの歯数は永久歯32本、乳歯20本が基本である。歯数の異常は、歯数過剰と歯数不足がある。現代人において、歯数不足は歯数過剰に比べ、頻度が高い。2008年8月鹿児島県沖永良部島大山水鏡洞から出土した縄文時代人骨に歯の先天欠如が認められた。

本稿では、大山水鏡洞人骨の先天欠如歯について、人類学的精査を行った結果を報告する。

2. 資料および方法

先天欠如歯が確認された人骨は、鹿児島県沖永良部島に所在する大山水鏡洞から出土した(図1)。沖永良部島は奄美諸島の南部に位置し、島のほとんどが裾礁型サンゴ礁で覆われている。そのため鍾乳洞も数多く存在し、大山水鏡洞は全長10kmを超え、日本国内でも有数の長さを持つ鍾乳洞である。

大山水鏡洞に人骨が遺存していることは以前から知られており、2008年8月に行われたテレビ朝日の学術調査により、1体の完全な男性壮年人骨が出土した(図2・3・4・5)。C14年代測定により縄文時代に属することが明らかになった。本人骨の歯式を次に示す。

8●6543○1		12345678	●: 歯槽閉鎖
765432●		1234567	○: 歯槽開存

歯式のとおり、下顎右中切歯が存在しておらず、同歯は先天性欠如の可能性が考えられた。先天欠如歯の鑑別のため、X線撮影を行った。また、歯および歯槽の観察は肉眼により行った。

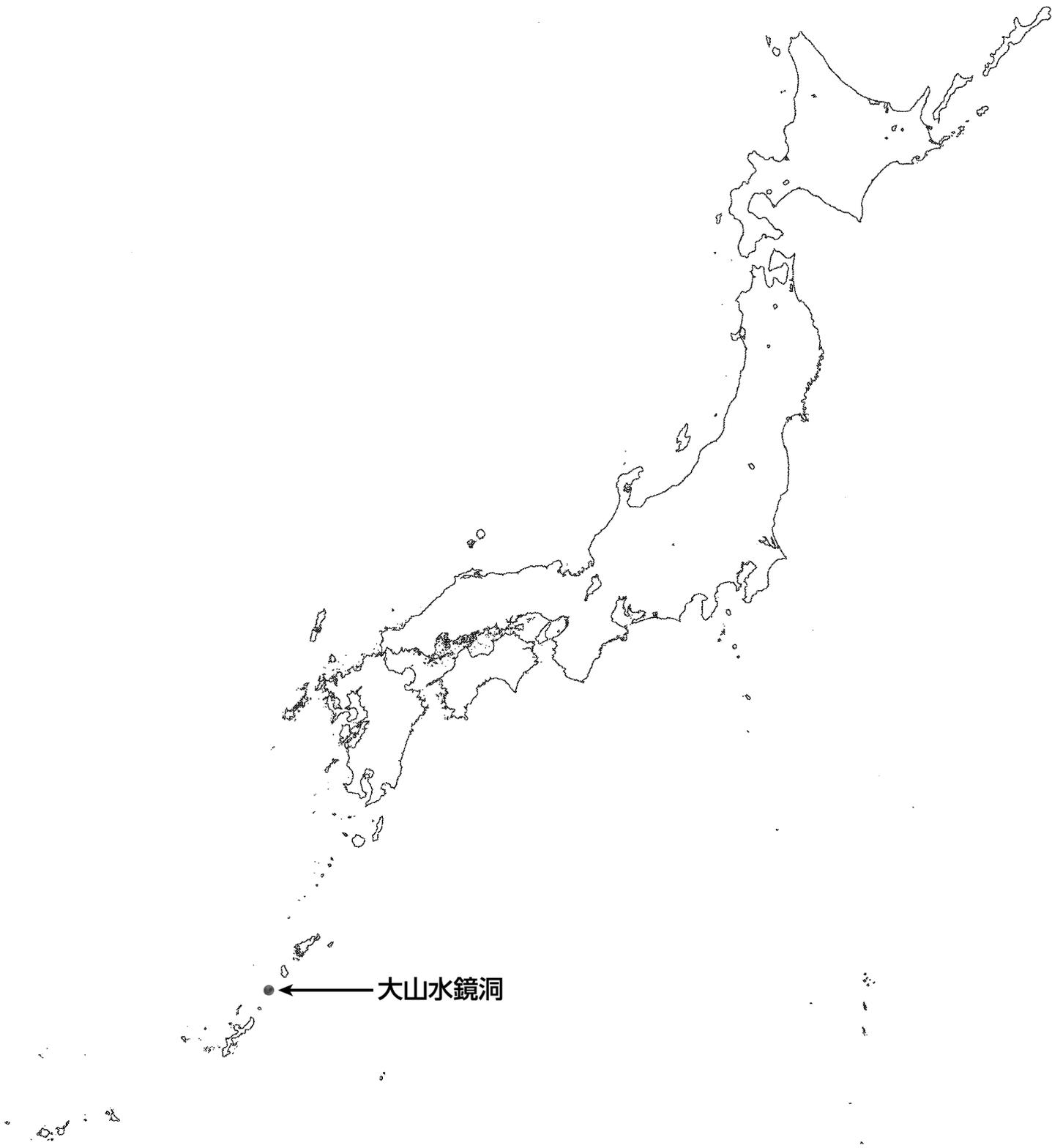


図1. 大山水鏡洞の位置



図2. 大山水鏡洞から出土した男性壮年人骨の出土状況

3. 結果および考察

下顎右中切歯は下顎骨中にも確認できなかった。病的埋伏や萌出異常による埋伏は認められない(図5・6)。また、齶蝕や歯周病など病的所見は、隣接歯にも、それらの歯槽骨にも認められないことから、齶蝕など歯科疾患による脱落も考えられない。

縄文時代から古墳時代相当期の琉球列島では下顎切歯部を抜歯する風習が存在した。風習的抜歯は基本的に若年期の抜歯であり、下顎切歯1本をこれにより抜いた場合、隣接歯が左右から移動しても、若干の空隙が残ることが多い。本人骨の場合、下顎右中切歯と同左中切歯の歯冠隣接面は接触しており、歯間に不自然な空隙は認められない。このように、歯が1本欠如していても隣接歯が隙間なく並ぶのは、永久歯が先天性に欠如した場合しか考えられない。

現代日本人における下顎中切歯の先天性欠如の出現頻度は、住谷(1961)によれば、男性が1.38%(68例/4917例中)、女性が0.98%(31例/3170例中)と比較的高い。これを先史時代人骨のそれと比較しようとしても、先史時代人骨の出土数がまだ十分でないことか



図3. 大山水鏡洞から出土した男性壮年人骨の頭蓋

ら、難しい。古人骨の出土数が増加し、先天欠如歯の系統発生的・進化学的要因の検討が十分に行われる日が早急に来ることを期待したい。

引用文献

- 藤田恒太郎 (1986) 歯の解剖学 (第21版). 金原出版. 東京.
住谷 靖 (1959) 日本人における歯の異常の統計的観察. 人類学雑誌67: 215-233.



図4. 大山水鏡洞から出土した男性壮年人骨の上下顎歯列



図5. 大山水鏡洞から出土した男性壮年人骨の前歯部歯列



図6. 大山水鏡洞から出土した男性壮年人骨の下顎前歯部 X線写真

(平成25年1月16日 受理)

